

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京海洋大学
整 理 番 号	A①05
事 業 名	持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム－オケアヌスプラス－

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
<p>コメント</p> <p>本事業は、キャンパスアジア第2モードで構築し成果を上げてきた海洋における国際協働教育プログラム「オケアヌスプログラム」を発展させ、対象をASEANの海洋諸国にまで拡大し、日中韓とASEAN諸国が一体となり、アジア諸国が共有する海洋分野の共通課題の解決を主導する人材育成を目指すもので、海事、水産、資源、エネルギー、流通、環境等、海洋関連の幅広い分野をカバーするプログラムとなっている。事業計画では、日中韓とASEANの7大学での統一基準の単位互換システムを整備し、学部低年次から博士後期課程までのすべての学生を対象として「SDGs達成に向けた戦略に対応できる国際的な高度専門職業人」の養成を図る構想となっている。</p> <p>教育制度やアカデミックカレンダーの異なる日中韓+ASEANの7大学の間で、質の保証を伴う単位互換のガイドライン「Credit Transfer System in East ASIA and ASEAN (CTSEAA)」を制定したことは特筆に値する。同ガイドラインの制定にあたっては、ポローニャ・プロセス、ワシントン・アコード等の教育の質保証に関する国際的な基準に準拠させようとしている点も高く評価できる。CTSEAAの構築過程は、本事業だけでなく、アジア諸国や欧米等の大学と質保証を伴った単位互換制度を新たに構築するノウハウとして波及効果も大きいと考えられる。</p> <p>また、国際教育交流を行うための環境整備が順調に行われている。外国人学生受入の環境、日本人学生の派遣のための環境、関係大学間の連絡体制について、十分に整備されていると評価できる。コロナ禍の影響を受けつつも、オンラインの活用等を含めて、着実に学生交流を継続していることも、高く評価される。</p> <p>一方で、人材交流が活発な大学と、そこまでではない大学との間に格差が生まれている可能性が懸念される。また、現時点では担当教員やカバーされている分野がやや水産養殖関連分野に偏っており、今後、全学的な取り組みにシフトすることが期待される。</p> <p>最後に、今後も本事業終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進とともに、将来の我が国と相手国の大学間交流の更なる促進と発展に向け、引き続き積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。</p>	